

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

奥の細道  
むすびの地



令和四年七月度 入賞句一覧

投句数 六百六十二句

特選

田中 青志 選

雲の峰どんと地球を支配する

瑞穂市

古川 純子

今地球は悩んでいる。温暖化・食糧難、そして絶えない争い。この雲のようにどんと地球を支配する救世主の出現を期待している。地球はすべての人類に公平に幸せをもたらすものでなければならぬ。一独裁者、強大国の言いなりであつてはならないのであるが、これを否定する術をもたず、地球滅亡の道を歩んでいるように危惧するところである。今提唱されているSDGSが機能して、危うい地球を永遠に平和に存続させることを祈らずにはおられない。

晩年といふやすらぎや夏落葉

長野県下伊那郡

長沼 まさし

落葉は次の世代への席を空けるために散る。人間も次の世代に席を譲るのがこの世の流れ。晩年とか余生は人によつて変わり、ここからがの定義はない。それは各個人の人生のあり方によつて異なるわけだが、それぞれの人生の自覚によるところが多い。晩年という安らぎは決して歳によるものではなく、それぞれの人生の自覚によるところを考え、いたずらに放棄する態度であつてはならないと思う。この夏落葉のあり方に学ぶべきところ大である。

夜濯は明日の試合のユニホーム

岐阜市

田中 淳子

思いも掛けぬ決勝戦への進出。前も後ろも泥んこは今日の活躍の証。いくら活躍の証とはいえ、この汚れでは様にならない。洗おうよ明日のために、明日までにきつと乾くよこの天気なら。急遽思いもよらぬ夜すすぎということに。特に膝のあたりをきつと綺麗に。天「お母さんは応援にはいけないけれど、頑張つてね」。一分かつた。きつと優勝して帰ってくるからね」。親子の絆はこんなところにも。

秀逸

ひとときを風と和むや夕端居

大垣市

伊藤 英司

夕映へて点火しそうな麦の秋

大垣市

岡田 あや子

洗濯のパリツと乾く夏の雲

大垣市

宇津 香代子

伊吹山逆さに映り水すまし

大垣市

高田 雅章

蜘蛛の巣のふくらみて風妨げず

大垣市

藤岡 啓子

子らの声まつすぐ通る夏座敷

東京都新宿区

花澤 ちいこ

白南風や大仏の背の窓開き

埼玉県川口市

吉永 寿美子

玉葱や転がされもし吊られもし

大垣市

鶴田 信子

蟾蜍けぢめ大事に生きにけり

栃木県那須塩原市

垣内 孝雄

噴水の飛沫を浴びる乳母車

兵庫県神戸市

岸下 庄二

入選

一般の部

一人居の自由は孤独余花の雨	大垣市	大杉 すみゑ
風運ぶピアノの音色五月尽	大垣市	立川 昌子
片かげにバス待つ人の長き列	大垣市	川瀬 恭子
水底に影を映すやあめんぼう	大垣市	久保田 悟義
雨音の明るきリズム柿若葉	大垣市	新町 恵子
吸ひ込まれさうな星空夜釣舟	大垣市	高田 雅章
あぢさゐや雨降るたびに濃い色に	大垣市	多賀 英華
過ぎし日の夫に内緒のパナマ帽	大垣市	辻 和代
植へ終る近江も美濃も風青し	大垣市	中山 あや子
鉄線花あの一とことに支えられ	大垣市	嶋 芙沙
上げ馬にどよめく社夏に入る	大垣市	後藤 喜美男
劳いや嘘も方便七変化	大垣市	鶴田 信子
蝉しぐれ百葉箱の錠の熱	瑞穂市	古川 純子
水遊びめくや食器を洗ふとき	奈良県奈良市	やまとなでしこ
梅雨夕焼黒き鼻緒の宿の下駄	大垣市	早筈 千恵子
相傘の肩を濡らして戻り梅雨	大垣市	田中 雅子
草を追ひ草に追はれつ草むしる	大垣市	宮脇 和子
ポスターに弾ける夏の来てをりぬ	佐賀県唐津市	古賀 由美子
少年の瞳かがやく夏の海	三重県四日市市	後藤 允孝
彩りを変へたる山の椎の花	大垣市	高津 喜久子

選者吟

窓を開ければ伊吹が見えて朝の蝉

青志

